

県外派遣審判員報告書

作成日 31年 2月 6日

大会名	第1回全日本社会人バスケットボール選手権大会 九州ブロック大会		会場	宮崎県都城市 早水公園体育文化センター	
期間	平成31年2月2日～3日		報告者	初瀬 真由子	
スケジュール					
期日	内容			場所	
2月2日	8:30	開講式・講義		同会場、審判控室	
	9:00	実技研修・MTG		同会場別室MTGルーム	
2月3日	13:30	男子決勝ハーフタイムに閉講式		同会場、審判控室	
レクチャー・審判会議の内容					
<p>第1回全日本社会人バスケットボール選手権大会 九州ブロック予選</p> <p>講師：日本社会人連盟指導担当：堀内 純 氏 講師：日本社会人連盟指導担当：北沢 岳夫 氏 講習会テーマ：「トップレフリーの取り組みを知り、3POメカの習得、CCメンタリティの理解 坂元、初瀬は第2ゲーム担当で、研修途中で退席。 本県、鳥羽瀬氏の講義内容をご参照ください。</p>					
女子1回戦	割り当て	WOLVERINE(熊本2位) 日の出ホルモン(宮崎1位)	クルー	C・C U2	久原裕未(長崎) 上野山靖(福岡)
<p>○ゲーム前 コーチの氏名確認、3POメカの確認、クロック管理の確認、ハンドシグナル確認等、初めてのクルーなので、基本的なことを中心に擦り合わせを行った。また、各県で降りてきている情報共有や、その中で食い違う点も少々あり、クルーとしてどう機能させていくのかを打ち合わせした。</p> <p>○ゲームの実際 ゲーム開始前にTOの生徒とも話し、審判としてどのようなことに注意を払うべきかクルー間で話げできた。全体的に、アイコンタクトが良く取れ、自分のプライマリーエリア・アングルがはっきりと分かり、判定はしやすかった。しかしながら、タイムアウト中の短い時間内での話がうまくコミュニケーション取れず、結果だれも現象をしっかりと捉えられていない場面も生じたり、ゲームの流れが変わってしまうような(これまで判定していなかったような)笛が出てきてしまったりした。県外の審判員だとか、初めてお会いするから、とか遠慮せずにCCメンタリティのもと、短く端的に意見すべきであったと反省する。また、自分の判定に関して、レポートの種類が違ったり、RSBQを十分に考えずに笛にしてしまったり、いつも指摘されることが出てしまった。もっと大きなビジョンで判定出来るようになりたい。</p> <p>OMTG(講師：北沢氏) CCメンタリティとして意識しておくべき決断力が必要であることや、見たものを見たままにファウルレポートするべきこと、プレーの</p>					
女子1回戦	割り当て	CLEAR(長崎1位) 福太郎めんべい(福岡2位)	クルー	U1 U2	田上敬一(宮崎) 山本一史(佐賀)
<p>○ゲーム前 1本目のゲームで出た各クルーの課題確認、3POメカの確認、クロック管理のこと、ハンドシグナル確認等、基本的なことを中心に共通理解を図った。</p> <p>○ゲームの実際 ゲームの序盤は1試合目の反省を意識し、特に笛に表現すべき接触をFOM・RSBQを加味すること、判定したものをファウルレポートまで正しく表現することを意識した。しかしゲームが進むにつれて、1試合目と同じように、不必要な笛を鳴らしてしまったり、レポートが違ったりと、同じ反省が出てきてしまった。ゲームコントロールの視点で考えても、流れやチーム・プレイヤーが何をしたいのか汲むことが出来ていなかったと感じる。九州大会に出てくるチームとはどんなバスケットをしたいのか、もっと追及していく必要があると感じた。</p> <p>OMTG(講師：北沢氏) プレーの全体像を考えた上でのファウルレポート等、1試合目でご指摘頂いたことと同じことを最後ご指摘頂いた。またプレゲームで話した内容で出来なかったこともしっかりとチェックされ、対応策を教えてくださいました。録画していたゲーム映像が上手く流れなかった経緯もあり、北沢氏に迷ったことや悩んでいることも直接伺える時間もあり、以下の点でクリアになった。 ①Tの位置のとき、3Pショットをのぞき込んで判定しようとしては、見た目が悪いだけでなく精度もぶれる。どのようにすればいいのか？ →ボールマンに対してDFがアクティブでないときは、敢えて少しだけストレートラインに位置し、その後のクロスステップを使い分けることで、OFのどんな動きにも対応できるし、それに対するreferee defenceも可能。 ②接触の事実もあり、RSBQも崩れ影響が出たと判断したので笛にしたが、選手やベンチの反動的にフラストレーションが溜まってきた時間帯があった。そのような違和感を私自身も感じているが、どのように対応すればいいのか迷ってしまった。 →鳴らせないより鳴らせた方がいい。後はゲームマネジメントを意識したときに、精査すべき笛を判断できるようになればいい。以上の意見をお聞きし、もっと自分のバスケット動やコンタクトレベルの使い分けを高めていかなければならないと感じた。</p>					
全体を通しての感想					
<p>今回、初めて社会人の大会で九州へ派遣して頂いた。上記のような反省点や発見があったのはもちろんのこと、各県のレフリーの方々とじっくりと拝見できたのはとても刺激になった。特に女性レフリーの方々とのお話しや、コート上での様々な在り方を実際に見たときに、私も早くこのステージに立ちたいと思ったのが正直な気持ちである。しかし、CCメンタリティも然り、ゲームに挑む準備にも然り、上級を目指すには、まだまだ色々と身に付けねばならないことが多いのも自覚できた。折角気付けたことを無駄にしないよう、県内に帰っても目の前のことから1つ1つクリアにしてステップアップしていきたい。 本大会参加にあたり、様々な心使いをしてくださった原田審判長や社会人カテゴリー長の坂元氏に心から感謝いたします。ありがとうございました。</p>					